京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からす

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（月刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲號外別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久一郎
印刷人　松久靜一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社
電話大三番　京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

基督教會と本願寺（一）

晴龍生

日本人の宗教に於ける其の大部分は宇宙の大勢に於て人生の意義に於て何者をも信ぜず何者をも梧らず唯漫然無宗教と云ふもの多く森嚴なる天地無限の空間に棲息し一糸紊れざる自然の理法を認めて其の何ものたるを解せず上下幾億萬年無限の時代に於ける蜉蝣の大生唯然け營々として目前の利慾をのみ是れ爭ひ今日立つ所よりも明日は高く今日なす所よりも明日は善く今日考ふる所よりも明日は異に今日見る所よりも明日は實に吾人が理想の目標に近くべき明日あるを知らざるもの世間滔々として皆此の類のみ亦憫むべきに非ずや唯是人體を具したる走尸と行肉とのみ人之を誹れば怒り人之を譽むれば喜ぶ而も汝の過去は何れより來りしや汝の未來は何れに行くや汝の現在は何が爲に茲にありやと問へば唯是れ知らずと答ふ世豈之に過ぎたる愚物あらんや

吾人が金錢以外名利以外に主義の人となり正義の士となり優々として死生の閒に談笑し肉体の外に超然たり得るもの唯無限の空間に對し無終の時間に對し古往今來火は熱く水は冷く柳の緑なる所花の紅なる所春夏秋冬運行して未だ一たびも誤りなき自然の理法を確認し小我を出でゝ大我に入り差別の外に平等を觀遂に天地と同体たり得るによらずばあらず吾人は此の見地よりして迷信を離れたる宗教形式に束縛せられざる信仰の崇高なる人格の陶冶に缺くべからざるを認む

吾人は我が京城に於て所謂無宗教を標榜して利己の私慾の外何物をも知らざる紳士の多きを見哲人ソクラテスの云へるが如く知らざるを知りてなす所の徒換言すれば形而上の事項に對しては全く盲目なる人々の多きを遺憾とすると共に京城の靈界を支配する事斯の如く微力なる教會及寺院の現狀を見んと欲する事久しかりしが去月末日始めて京城基督教會に[illegible]

き論旨、一一肯綮に當り首肯すべき所い點甚多く次に立ちたる海老名彈正氏は神とは愛の意志なりと斷じ三位一躰より異如を說き遂に犧牲獻身に及ぶ所脈絡一貫學識共に高き氏の人格は更に其の論旨の崇高なるを感ぜしめたりしが氏は終に臨み「予が諸君をして特に基督教徒たれと云ふ所以は神道は更に云はず佛教の如きも今や僅に我が日本に餘喘を保つのみにして吾人が世界の何れに旅行するにせよ基督教徒たらずば靈に於て孤獨の感なき能はず見よ耶蘇教の心靈に及ぼせる波動が世界に如何なる勢力を以て運動しつゝありやを吾人が基督教を信ずる以上アングロサクソンと云はずスラヴ民族と云はず世界の何れに至るも同胞の感、故郷の懷あり何を苦しんで東洋の一隅に狹隘なる舊態を墨守せんや吾人の信仰を世界的に求むるは方に今日の急務なりぞ是に於て聽衆の中、黑絽紋附の羽織を着せる有髯の一北漢あり突然立ちて是れ日本魂を消磨せしむる所の演說なりと大呼し席を蹴つて退場したり

文苑

大同江畔所見　秋川漁郎

歌管邑々枕水樓。料知漂客作豪遊。漁翁不管世間事。風雨滿江獨下釣。

出京途上占　同人

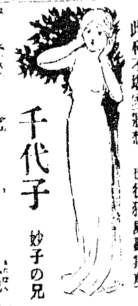
匆早征途暫不閒。一天多雨島成慳。景光如此無由賞。車上偸看芥々山。

入京泊稻葉旅館偶成　同人

浴餘呼酒澆塵胸。微醉便思吟興濃。晩倚欄干擴眺矚。一天如墨鎖千峯。

此夜深更雨甚即有此作　同人

蕭々擔滴逼孤衾。酒醒客窓難慰情。此夜不堪寥寂想。也從獨臥聽斯聲。



千代子

妙子の兄

與四郎君の御母さんは間もなく又晩に出ますと云つて庭傳へに歸られたが、與四郎君は晩[illegible]



凉味

あるのが左樣と思はせる。

「與四郎、歸らんか、お邪魔になるぞ」と下駄を足で探り履きをしながら「一緒に歸らんか」と立ち上られる。

「僕ア御伴食をしてから歸ります」と言ふ。父君は夫れを沈と上から見下して。

「湯ならば自家にも沸つぞ」と不審る「湯、湯ならば私もお伴食は望みませんですよ」

「ナラ何かい」と眼が据る。

「御馳走、即ち飯ですよ」

「馬鹿ッ」と喝した父君はクルリと背を見せた。

悉くが聲を合はせて笑つた、乾度父君も笑つて居るのであらう。

「妙さんがね、是非兄さん一緒にと勸めるから夫れで承諾したんですよ、決して僕が……」

「嘘を言へ、お前が強請んだのだ、デなければ妙さんのお世辭だ」と此方を向いて立たれた。

「失敬だなア、飯を強請したらうなんて、父さんは自分の子の價値を餘りに低く見て居らつしやるから困る、更らに妙さんが心にもないお世辭を云つたのだらうと仰云ふに至つては妙さんを侮辱したものですよ、御失言として取消を請求します」一同哄と笑ふ。

[illegible]「失敗」と下駄を輕く鳴つて行かれる。[illegible]

林檎を山と盛つたのを持ち込んだ。「只今はお邪魔を致しました、アヽ此れはお難樣方に」と叮嚀にお辭儀をする。

妙子は一寸立つたが直ぐ座に戻つて手に牛蒡の一掛を持つて。

時事俳評

千峯

△商議の兩議員辭職
水入つて互に退くや關角力

△水道斷水の無責任
奉納の杓に底なし蟬の聲

△斷水と總督部活動
施しの清水もわりて夏木立

△各地方の大水害
一面に海の樣なり夏の野邊

△京城の金融緩漫？
雨十日貯水池からあふれけり

△東京相撲の興行
五月晴櫓太皷の響きかな





召使れ初

第百九回　墨法師

「を」とお茶は恐しき物にも見ゆる如く顏の色を變り「政姫樣でござりまする」[illegible]

伸び上る樣にしつゝ「相生どのお供なされます、澤野樣もお供なされます」政姫參られと云ふよりも、澤野御供に立ちしと云ふが、富貴姫はお厭なりき、政姫どの御間は原より好きと云ふにあらねど、御同胞間の血の關係は、遠く離れんとするお二人の間に温き春の風吹きて、時には懷しき心も出でたまへど、澤野に對する御心の重しから、ねば、宛ら蛇蝎に對させたまふ如くなりき、澤野の奥深き眼、胡麻鹽の頭、墨を流したる如に黑ずみたる目皮の色を見さするごとに、富貴姫は自然身の縮むを感じさせき「ね、澤野が來たとの、澤野が來たとのと」恐しげに一歩退き「何としやう」

「澤野樣が恐いことはござりませぬ、澤野樣はお年寄、申さば樣々御家來でござりませぬか、乳母もお付き添ひ申してござります、樣々に敗を取らすてと致しませぬで、お氣を確かにお持ちござりませ」

「いや〳〵」と富貴姫は頭を振らせて「私は否ぢや、澤野を見るは嫌ぢや、彼方へ行かうぞ」云ひ果てゝ駈け出したまふ、花のいろ〳〵面白う咲きたる園に、暴風忽ち至りたるが如き樣、御顏の色さへも變りて見ゆる。

「お不憫さうに、御本腹で在らせながら、御家來へまでお氣を兼ね遊ばします」とお茶は悲しげに獨言、その身も富貴姫の後を逐ひて「樣々、お待ちなされませ、乳母もお供致しまする」菊合して遊ばんと御意あらせしも、悉く捨てさせて、菊のいろ〳〵色好きを摘み取らせたう御目の中に[illegible]

[illegible]

ねて、そこの大地に平伏したる女あり、お峯なく目前に現はれしを見させて、思はず歩を止めさせしが「乳母、什麼としやるの」と背後には蛇、前には恐しい嚴樹なんぞの出で來りたるに遭せたまふ樣にて「何事でござります」袖の下に抱き寄せ「恐れながら……」と平伏したる女は顏をだも擡げず、「是れ年寄國尾樣に事へまする嬬と申す婦女でござります」「そう」とお峯は油斷なく「その樣が什麼として參りやつた」

「旦那樣仰せ付け、菊の花の美しいを一枚頂戴致さうとて、これまで參る處、圖らずも樣々のお姿を拜し參らせ、勿体なさにこれへ下座したでござります」お峯は國尾うの聲に異は現はれぬ、お峯は國尾の召使とあるに安堵して「そなた國尾どの召使か」

「御意にござります」

京城新報

通貨の膨脹と移入超過(一)

官民の注意を要す

朝鮮の貿易は主として母國を以て對手となし、[illegible]

[illegible]所に依れば併合後三[illegible]加ふるに鐵道及び道路[illegible]され、且半島政費も[illegible]近くは内地資本家の[illegible]の多き事、主として[illegible]し、從つて移入增[illegible]に至らしめしもの[illegible]思ふに通貨の膨脹[illegible]に非ずして前記の[illegible]半島に入り來る通貨[illegible]なつて止まり生産的[illegible]膨脹は決して移入[illegible]ものならず[illegible]に伴ふて膨脹せる[illegible]入超過の原因たるに[illegible]然て乎、吾人は半島[illegible]して要へざらむと欲[illegible]して其理由は次號に詳論すべし

東京電報

▲王世子歸鮮 李王世子殿下は嚴妃殿下御逝去の急電に接し天皇陛下の御裁可を得て廿一日午後三時四十分新橋發直路歸鮮の途に就かる

▲總督の東上期 寺内總督は本月末乃至八月一日京城發歸京すべしとの内報ありたり

▲三井銀行配當 三井銀行は二十日午後二時より總會を開き[illegible]配當案を可決せり

▲鐵道豫算編成 明年度の鐵道豫算は鐵道院にて總括的に編成中なるが韓國に關係ある分を除き改良工事等にて大規模のものなく今年度に比し一二割の増加を計上するに止むべしと

▲九州大學規程 九州帝國大學に關する規則は二十日の官報を以て發表されたり

▲王世子御歸國 李王世子殿下は李太王妃殿下薨去の報に接せられ御葬儀參列の爲め近日御歸鮮の事に決定せり

▲王世子の隨員 王世子今廿一日御歸鮮に付き御用掛古谷久綱外[illegible]隨行す

▲王世子旅行中止 李王世子殿下は本廿日[illegible]中止され無[illegible]李太王妃殿下御病氣[illegible]と傳へられたり

▲[illegible] [illegible]は同五日より九日まで碇泊する筈也

▲土木費國庫補助 本日の官報を以て災害土木費國庫補助規定を公布したり同施行細則は目下法制局及大藏省と交渉中にて省令を以て公布さるべし

▲米海軍大演習 紐育港内にて米國海軍の大演習あり攻撃軍は十七隻の戰闘艦二隻の偵察艦八隻の補助艦より成りロングアイランド海峽より紐育に攻入らんとす防禦軍は十一隻の潜水艇及十隻の驅逐艦より成り居りと

▲遣英宮殿下御一行 東伏見宮殿下御一行は豫定の通り二十日ポートサイド御着三十一日蘇士に向はるゝ筈なりと公報ありたり

▲獨逸艦隊の巡航 獨逸艦隊六隻本月廿七日樺太に寄港し八月九日元山に入港する筈なり

▲南北朝問題の結了 南北朝問題は十九日夜漸く決定したるも尚一回會議を開き全部結了すべし

▲道家局長歸期 漁獵保護會社に列席したる道家水產局長は來月西比利亞線に依り朝鮮を經て歸任すべし

雜報

●朝鮮教育制度 拓殖局にては各殖民地特に朝鮮の教育制度に關し江木部長の指揮の下に目下調査をなしつゝあるが某々体の方針は殖民地の統治上常に政治的弊害を醸すは高等教育を受けたる人士に多き事實は彼の英國が印度に施せる教育制度に依りて明白なれば之等の點を參酌し可成高等教育に走らざる範圍に止める筈なりと云へは結局中等教育程度を最高となすに決すべしと云ふ

●最近私立學校數 總督府調査に係る五月末日現在私立學校令に依り認可を受けたる各道私立學校總數一千九百十五校なるが内一般普通の私立學校一千百八十校にして他の七百三十五校は宗教學校なりと

●養蠶飼育の諮問 目下京畿道廳内に開催しつゝある授產場主幹會議は二十日其諮問案第三項なる「養蠶に就て試みたる各種飼育法の比較成績及之に對する意見」に關し種々協議したるが要するに朝鮮は内地と氣候風土及其他の家屋器具等の事情異なるは勿論殊に一般當業者の民度低きを以て内地に於て行はるゝ養蠶方法を其儘朝鮮に向ゆるよりも朝鮮の現狀に適する養蠶方法を講究するの必要ありとして本年一月總督府に於ても各道[illegible]りしも未だ十分に解決を見ず中央及地方の技術機關に於て之等の試驗調査を重ぬる事になり居れる者なれば本問題は頗る重大なりとし本會の審議に際し農商工部より中村農務課長、三田技手、勸業模範場より宮原、向坂兩技師及岩田鎭山支場長、長岡技手等臨席し午後二時迄に諮問を終りたるが同席上に於て中村課長及宮原向阪の兩技師より本問題に關する講話あり四時に散會したる由各主幹は各授產場に於ける本年の產出になれる各種の見本繭約五十點を陳列して一同の參照に資せりと云ふ

●寺内總督の弔問 廿日未明嚴妃危篤の報達するや寺内總督は直ちに國分人事局長を代理として町賓に見舞はしめたる事は既報の如く所して午後二時に至り喪を發せられたるに依り寺内總督は廿一日午前十一時官邸出門德壽宮に赴き弔辭を述べたり

●嚴妃葬儀期 嚴妃の御葬儀は朝鮮の慣例に依れば逝去後三ヶ月を經て執行さるゝ次第なるが李太王殿下の御思召により目下葬儀の順序に付審議中なるが多分一ヶ月後に御葬儀執行さるべしと

●定例長官會議 二十一日總督府に於て定例長官會議を開き寺内總督山縣政務總監を始め木内、宇佐美、小松の各部長官池田通信局長官[illegible]副總裁列席政務の打合せを爲し午前十一時散會したり

●内務部長官督勵 宇佐美内務部長官は今回の水害に際し各道長官に命じ緊急の場合は速かに電報を以て他は書面にて詳細調査の上報告すべき旨通牒を發したり

●水道修理本工事 臨時應急修理竣工して通水を見るに至りたる京城水道は到底かゝる姑息の手段にて安んずへからざるを以て大修理をなすの計劃あるも本水道の鐵管破損個所は京元鐵道の鐵橋附近に當り該鐵橋建設のため地下二十餘尺も掘鑿したる爲によつて鐵管の敷設個所に故障を生じたる次第なれば非常に大設計をなして修理するの要あるも何分豫算の關係あるを以て未だ何等決せずと云ふ尤も應急修理は當分の間決して不安の恐れなきを以て本修理に着手する迄は別に改めて修繕せざるべしと云ふ

●廣梁灣鹽田水害 廣梁灣地方は本月十七日以來稀有の暴風雨にて鹽田工事進行上に大打撃を受けしも鹽田の堤防等[illegible]それりと專賣局廣梁灣出張所長より二十日午後四時發專賣局に電報ありたり

●菊池氏と商議員 今回商業會議所特別議員に當撰したる菊池農商工部殖產局長兼商工局長は曰く就任するも差支なきものゝ如きも自分は商工局長の立場よりして當然會議所を監督すべき職責ある以上は就任する事難かるべしと云へり

●京城印刷界の狀況(上半期の)

――明石日韓印刷會社取締役談――從來當地日韓各官衙は度支部を除き他は各部隨時必要に應じ印刷物の多くは民間印刷業者をして印刷を請負はしめ居たるに御承知の如く昨秋日韓併合と同時に官制改正行はれ從來度支部所管の印刷機關を擴張し總督府の直營となし現今は通信局の印刷物を除き他は總て總督府印刷局に於て印刷することゝなり一面昨秋來官衙取締に伴ひ民間諸般の印刷物は然其の數を減じ剩へ各種書籍の押收行はれたるにより書籍店若くは著作者よりの從納金回收の成績不良なりし結果當地印刷界は未曾有の大打撃を蒙り僅々銀行會社並に民間小口印刷物の注文のみにして偶々各官署の小口印刷物及通信局の印刷物等あるも通信局の多くは狹窄紙使用のものゝみにして內地より移入する原料の高價並に手數等に於て到底東京の專門印刷業者と同價にて引受くる事困難なるを以て何時も東京に獨占さるゝ聞きあり現に去る四月上旬通信局に於て當地實價約八千餘圓の印刷物競爭入札を行ひたる場合の如き我が社は極度の薄利を以て見積り入札したるに東京當業者の入札額とは數百圓の差を生じ遂に東京の手に歸したる有樣なり以上の如くなるを以て漸次悲境に陷り進んで利益を獲得せんよりも寧ろ退いて經費の節約を行ひ資本を注入して專ら現狀維持に意を努しをる次第なり然れども斯かる現象は永久持續すべきものにあらず民間經濟界の發展に伴ふ諸般事業の勃興するあらば目下の資本注入は總て會社の基礎を固め薄利以て成る機關と競爭するの機を得て現狀を回復するも亦容易なるを信ず尚ほ我が社の損益に就ては目下精算中に屬するを以て詳細は後日に譲るべし云々

●慶南の養鷄奬勵 慶尚南道廳にては養鷄奬勵の目的を以て本年各郡に配付すべき種鷄百二十七羽を東京府下荏原郡大崎町鶯場に注文し此程到着せしに付近々各所農家に配付すべし[illegible]

[illegible]家畜家禽、織物、莚席、製紙、陶器等にして其の年生產額を列記せば米國五〇二、一反飼育戶數一六、二〇九戶牛一〇三、二五〇匹馬三、二七〇匹驢二〇六匹豚二八、六六五匹山羊一、七九八匹鷄二八三、八八五羽織物三一〇、二八四匹莚席四、九四〇枚製紙二四七、四九六束陶器二八、五一四圓

●元山水力電氣業 元山港の水力電氣事業は既に水源地水路等の測量を了へ既に市内配電線路の測量杭を打始めたり會社側に於て重要電燈の概數取調べたる結果は其主なる處のみにて既に豫定數に超過し好況なりと

●總督夫人小宮次官を訪ふ 寺内總督夫人は兒玉秘書官を伴ひ廿一日午前十一時小宮李王職次官を訪問す

●各官の陞叙 判事岩野新平通信局長池田十三郎の兩氏は高等官一等に通信技師岡本桂次郎氏は高等官二等に何れも十七日付を以て陞叙されたり

特別通信

釜山より(其四) エスケー生

釜山水產株式會社

目下新舊漁港の落成の途にある、漁港共同倉庫の如き公共的營造物は、比較的公平の地位に立てる政府當局者の直營とするは、尤も其當を得たるものにして他の一私人若くは一組合の如き、收利を目的とする者の營むべきものにあらず、之れ政府者は直接利害の關係なく、私人私團體は直接利害の關係深くなり、況んや後者は自己の收利を目的として之れを經營し、前者は公共の利益を增進するの目的にて之れを營むに於ていや。之れ經營の目的と性質に於て既に有關の差異あり、其結果の差異あるべきは固より當然なり、今日まで若し經營して漸く成就の緒に就かんとする此の公共的施設物を擧げて、營利の外眼中無一物なる一會社に打任せ、其狼心虎慾の犠牲に供するが如き愚且つ暴なる措置は、賢明なる當局者の決して敢てせざる所なるべきも、彼の自己の利益の外眼中何物もなき、水產會社の如きは、如何なる巧言令辭を弄して、當局者の聰明を壅塞するやも圖られざれば、當局者は須らく公明正大の見地に立つて、多數漁夫の福利を棄てゝ、貪婪飽くなき一會社の私腹を肥すが如き過失に陷らざるよう、充分の警戒を要せずや。

終りに臨み吾人は總督府當局者が、釜山水產株式會社の不正狡猾なる現狀を精査し、行政的權能を以て其營業を禁止又は停止し、同時に漁港時代に適當[illegible]及び殆んど數日の後に成就せんとする漁港共同荷揚場を開放して、漁業者の便益を一層增進せしめんことを希望せざるを得ず、若し然らずして彼の一會社をして、何時までも獨專時代一時の便法として附與したる特權を今後に擴張せしめんか、多數漁業者の不幸を益々增加するのみならず、延いて漁業者を釜山方面より驅逐するに至らむ、之れ獨り會社の不利益なるに止まらず、釜山將來の禍根にあらざるか、總督府當局者の一英斷は漁業者、會社、釜山の三者を永久に救濟する所以なれば、吾人は煩を厭はず水產會社の狀態を縷述したり、當局者に於て之れを諒せよ。

●朝鮮群書大系發行 朝鮮雜誌社の朝鮮古書刊行會に於ては本月は朝鮮群書大系第二十一輯として擇里志定解第二を刊行し豫約者へ配本されつゝあり

●文獻備考の廉價發賣 文獻備考は朝鮮の文物制度を知るに最も便利なる一大寶典なるが朝鮮隆熙時代內閣にて翻刻し實價三十五圓にて希望者へ頒ちたりしが今回朝鮮雜誌社の朝鮮古書刊行會にては其殘部一切を總督府より讓下を受け非常の値下げをなし特價二十二圓にて希望者に頒つと云ふ、朝鮮研究者の福音と言ふべきなり

●石塚長官の引籠 石塚取調局長官は二三日來風邪の氣味にて目下官邸に引籠り靜養中なりと

●百三十披露宴 當地百三十銀行總行新舊兩支配人披露主任送迎披露の爲め官民二百餘名を招待し二十二日午後六時より花月に於て宴會を開くとの事

●菅原氏の送別會 當地百三十銀行總支店支配人菅原大太郎氏今回東京へ轉任に付き和田常市古城管堂兩氏其他有力なる實業家發起の下に二十一日夜花月に於て盛大なる送別會を催したり

●菅原氏出發 同氏の出發は二十四日午前九時なりとのことなり

●奥專賣局技師 總督府專賣局囑託の大藏省專賣局技師奥健藏氏は七月二十日夜東京出發渡鮮の途に上りたる旨度支部專賣局に電報ありたり

●加越能郷友會 同會にては目下來城中の横綱太刀山以下四名を招待し二十二日午後六時より翠翠樓に於て夏季懇親會を開催する由なるが希望者は何人にても出席差支なく會費は四圓との事なり

●武藤事務官の負傷 水害地視察の爲め慶州方面へ出張中なりし武藤事務官は[illegible]の爲め二十日漸く歸任し[illegible]

[illegible]長及漁撈徵收員に警察を兼用せしむる事とし近く總督府令を以て之が組織及使用方法等發表さるべしと

人私人

▲山口恒太郎(電氣株式會社長)廿日天眞樓へ

▲小林一生(辯護士)廿日巴城館へ

▲ターナー(英國電機技師)[illegible]

▲河井松之助(百三十銀行總支配人)廿日山本旅館へ

▲渡邊實義(國民新聞記者)[illegible]

▲ダーデランデー(獨逸鑛山技師)[illegible]

▲京城手形交換高

七月二十一日 金高 七一、二三七、三三〇 [illegible]

▲京龍兩驛の貨物

▲南大門驛發着(二十日分) 發送貨物 四六七 到着貨物 七五、三三〇 [illegible]

▲南大門驛收入高(二十日分) 旅客賃金 二〇〇 貨物賃金 六三一、二五〇 [illegible]

▲龍山驛發着(二十日分) [illegible] 一七七 八七、〇一〇 [illegible]

▲龍山驛收入高(二十日分) [illegible] 五〇四 二四、一七〇 [illegible]

仁川港出入船舶

▲山東丸 二十二日神戸より

▲高砂丸 同 大連へ

▲彰州丸 同 鎭南浦へ

▲治外法權▼

改訂日英通商條約中の一箇條に就いて、從論や何やかや入ケ間しいのは、要するに死兒の齡を數へる様なもので、[illegible]政府當局者は、兎に角、國家の大局から云へば金ではないと云ふ丈けにて、[illegible]金ではないのだ▲見玉へ、[illegible]英國民の血は一トッ、[illegible]日英間の貿易の重大さは、[illegible]比して、數十倍と云ふのではないか、[illegible]英の實際、英國カナダ[illegible]圖に統し、トモすれば、好奇[illegible]の注目する所となりつゝある英米仲裁條約の必要は前記[illegible]の必要は別として、英國側から來たのだ、此必要に因つて現れた英新協約中の一箇條は只是れ[illegible]云ふて已むの外はないのだ▲[illegible]京城教育會だ、時よらか具體的の仕事をするようになつたのは結構な事だ、只だ記者が云ふのは、同會が仕事の多い割に[illegible]な事で、之は何とかして基礎を作るようにしたいものだ▲金澤博士が朝鮮語に就ての講演を始めた、トロへ鳥居龍藏君が近日中に人類學講演をやるとの事だ、有志者は彼等に聴き、其枯渇せるアタマを養ふべしだ▲菅原百三十が東京に轉任すると云ふ[illegible]老人の許へ丁稚に行くのだ[illegible]

京城藝妓の半生
松葉亭の時松(二)

ナカ〜の通でしょう、物覚わが良いんですね、其處の停車場を跡にダン〜と爪先上りやない滊車先上りにロツキー山に登る大森林に入るかと思へば打ち開いた風景の何とも云へぬ好い所へ出る瀑布がある雄大と云ふでしょうね何しろ其のカカリが運ひますね、殆んど頂上とも云ふ所へ掛ると材木……**板圍ゐの隧道**がある**雪**除りの爲めに作られたものですと彼れが五哩もあらうと云ふのです、雪地の番所でスノーシエツドと云ふ相ですよ、其處で御覧なさいと一寸引き掛けてモ一つ御覧に此の滿節を一寸食ひ惑、此の齒觸がありまする所に何んとも云へぬ味がありますわ美味、エト夫れから滊車は下りになる、**ネバタ、ユーター**の**大平原**は此所に展開されるのです知つてる丈は濃語と使うから夫れでないと他が馬鹿にしますもの、**一望千里**實際一望千里茫々として際涯もない日本位は丸めて其の中へ投り込める程でしょう、エれ前は米探だらうつて、何故、米國を褒めるからだつて、**眼を開いて夢を見る**ものでは有りませんよ、貴郎は乾皮奥さんが隣りの旦那をれ褒めになると蹙縁なさるよ嫉妬焼きの自惚男だよ、ツク〜奥さんがた可愛相だね、エ、謝罪つたとあれば勘忍して上げましよう、デ妾は乗り合ひの方に聞いたのですが此の平原では**滊車に追剝**が出る、其の扮装は**馬に乗つて面を冠**つてカウボーイハットを頂いて一隊がヅラリ滊車の線路に整列して何んと信號しても退かない巳ひを得ず進行を止めて滊罐手や車掌の如な者が降りて行くと彼れ等は直ぐにこれを縛り上げて置いて滊罐車を……短銃を差し向けて ホールタツプで押し付けて

ふ然うして置いて何千人かの乗客の一人一人に**所持金、指輪、時計等の貴重品**を外して悠々として**ロッキー山を越ね**て**メキシコの國境**へと!マンカヅツするのだから何うしても不明らん相です、夫れで多く夫れの出るのは收税が納まつて支金庫から本金庫へ送金さるゝ時分夫れを積んだ列車を目覓けて出るのが多い相ですね、エ、ノベツには出ませんとも、桃や林檎の花盛りを眺めつゝ滊車が進行すると行く方に潮水があつて柱の様なものが立つてる夫れがソートレーキと云つて、**鹽の潮**立つてるのは**鹽の柱**ですと、餘り水が鹹いので魚が住まぬ相ですよ、エ、鱧鮭は其所で漁れるのかなつて、でしようよ、夫れから次に眼に入る立派な町がユータ—と云つて**モルモン宗の殖民地**です**一夫多妻**主義なんですよ、貴郎もユーターへ行らつしやいよ

●當地に於ける國見山の情事
▽御遣物と思つた失策

孔子も仰云つた通り故を温ねて新しきを知るは學者の心得べきこと古き疊を叩いて埃を取るは衛生に副へり古疵を洗ふて今後の戒となすことも又必要なればとの老婆心より相撲界の君士人なる國見山が當地に於ける艶聞情事を紹介すべし事は昨夏當地興行中或る客に伴れられて**花月**に遊びしが彼れは多く飲めぬ酒を強ひられ座に堪ねで其の**奥座敷に轉寢**の枕に就きたるが當時花月の月花と唄はれたる藝妓に艶子、辰子の二人ありしことは粹様のれ詳しい通り夫れが又揃つての角力狂ひ當夜辰子は他に情人が登樓し居たるを打ち棄て置きて此の國見山の座にのみ來り居りしを仲居は氣にして元の座敷へ押し遣るに勤めたりと云ふは座に侍れる艶子は元より辰子は角力と見れば夜襲する僻あるを知り居りしからなり夫れは扨置き此處に**辰子**は何か心に一物あつて平時ならば無理にも引き止める情人を逐ふが如くにして送り歸したる午前一時過ぎ部屋にも入らで**國見山**の寢て居る**部屋**に忍び寄りしに酒は升を如何に過……に失敗たりと自巳が部屋にと引き返したると殆んど入れ違ねて仲居の一人が箱園を出しに二階に登り何氣なく國見山が所を見れば**艶子**の寢衣は傍への釘に掛けられ**枕を列**べて寢て居る主は確に夫れなり、オヤヤアと呆れて藝妓部屋に入れば辰子は主なき艶子の夜具を眺めて溜息吐いて居しが仲居の入り來りしを見るや艶子さんは何處ねたり、アラ艶子さんは國見關のと半分聞かぬ内に**血相變**ねて辰子再び二階に上つて様子を伺へば成程確に夫れなり殘念至極此の怨晴らさで置くべしぞと**仲居頭**に艶子さんは國見關の所へ出て居ますが帳場へ通つて居るのと詰寄せると、イヽエ決して其様ことはないとの挨拶に辰子威丈高になつて『無い所ですかよ有る最中ですよ、現在妾が見て來たイヤ妾斗りぢやない仲居さんにも一人證人がありますぞね』と嫉ましさの一所懸命、然らばと三人伴れ立つて檢分すれば正に夫れと判明したるにぞ翌朝に至つて國見山が**身代金**何十圓也を**支拂**ひて事は**落着**したが國見山曰く『何んとも人氣の惡い所だ、**れ進物**と見せかけて**金を取る**とは』と今は此の二人者ともになく國見山獨り運日の雨を聊ち居るこそ氣の毒なり


涼味

●兩遊廓の葛藤
▽新町と中の新地

ツヒ一ヶ月程前まで新町遊廓は日曜樓に月曜と名乘りし變まり女ありけつたることは粹様先刻御承知の事にて此の妓又都合ありて中の新地は開盛樓に鞍替へしたることも此れ又先刻御承知の通りなるがまだ新町に居た當時惜からず思はれた男に龍山陸軍倉庫の**糸井寅治**と云ふ深間ありて前記の如く中の新地に住替をした跡まで時に馴染客へ出した通知状の内特別念入りの一ヶ所に〜とて在くれたぬみます〜」の一通は糸井の手に落ちたり之れを手にした糸井は月曜の住替ねた**開盛樓**には**金八**と云ふ抑妓があるのでハテと一時は當惑したが帽子を眉深にハンカチーフで鼻の下を隱せるだけ隱して行けば發覺の憂あるべからずと如上の仕度で押し登つて『新町から來た妓を出せ』と云ふ聲音に不審を懐いた仲居がハンカチーフを奪つて見れば金八の馴染客『夫れや貴郎罪だつせ』と行つたが月曜でなくてはと糸井頗る情のある言ひ草に仲居も今はさて女將に相談せしに金八は叩き分けの自前稼ぎ月曜は年期抱へなれば**月曜の客**にするが樓の利益と金八には一言の挨拶もなく月曜を出した大引後斯くと知つた金八金時の如になり女將に抗議を申し込みしも要領を得ぬに業を煮し翌日は月曜に直談判の末が双方れ定まりの猿猴流の奥手を以てキャツ〜と云ふ大亂痴氣其の裁判が女將に片手落があつたと云ふので金八ツアン無類怒つて**新町**日曜樓に**住替**へ朝日と名乘つて出た二三日後自分に宛てた手紙が來ては居らぬかと狀差を見ると差出人糸井寅治とある的切り**先夜の詫狀**なるべしとイソ〜と封を切つて見ると**大當違ひ**夫れは〜甘つたるい事を書き列ねた末の宛名が月曜様とある、月曜が住替ねたと同時位に來たものを轉送するのを忘れて居たものと知られた、落胆の金八アノ月曜の穢多女郎と呟いたのを同樓の菊代が聞き咎め新顔の僻に生意氣なと極め附けた間もなく菊代も中の新地の梅の家に住替わしよう早速右の次第を月曜に話したるにぞ月曜が火曜の如になつて口惜しがり電話口へ金八を呼び出して穢多女郎とは貴様だら他の手紙を破つたのは男を取られて口惜しいからか意氣地なしの金八ヤーイと怒鳴つたので金八はモウ堪の上は……時々臺所へ出て**出刄庖丁を逆手**に中の新地の方を睨んでは唸つて居る由なりとは危險千萬

●殺人犯人の就縛
▽昨の秀才今の罪人

原籍三重縣三重郡川越村大字親崎十七番屋敷啓次郎の弟後藤信一(二九)は同縣第二中學校卒業以來川越村立小學校に教鞭を採りつゝ専ら職務に勉勵し剩へ物理學には非凡の天才を有し天晴未來の博士と人に謳はれつゝありしが此所に同校の女教員に某軍人の未亡人たる安立らい(三六)と云ふあり信一は何日しか同人に戀慕し艶書を送る事數回なりしが一方のれらいは年こそ若けれ夫は日露の戰役に忠死したるものなれば其の靈にも相濟まずと一回だに返書を送りし事なかりき然るに信一の情慾は益々募り最早如何とも抑へ難く昨年の六月二日午前七時吾家を出で登校を裝ひ途中たらいの來るを同校を離るゝ約二十丁斗りの處に待構へ小橋の袂にて出會したれば信一は一片の返辭もなさざる不屈なる女よと云ふよりれらいの胸倉取て河中に突き落して之れを殺し同夜は吾家の椽下に夜を明し翌三日夜自巳の所有金三十圓及兄の金六十圓を拐帶し出家逃走し明石及門司等を經て同五日京城に來り三重縣松坂町長野平吉と稱して東洋旅館に宿り直ちに新義州より草河口標頭奉天と彷徨する中梅毒に罹り衛戍病院に入院するに至り遂退正に谷りしより死を決して原籍及本名を名乘りたるにも係はらず法網を免れたり偶々奉天に於ては玉井刑事に疑はれしより蒙古附近に逃走したる後ち大連に至り本年一月八日大連を發し北韓に入り本月十四日元山を經て再び京城龍山に四五日を送り仁川に至り花房町菊屋旅館に鳥取縣西伯郡大谷三郎と稱し宿泊し翌日は白石旅館に轉宿し西洋雜貨商と稱へ居たり翌日は筑前屋に轉宿し島根縣生れ無職大川五市と稱へ居たり而して仁川署の坂下今井の兩刑事は昨年彼れ信一が兇行の當時同署に照會ありし人相書に目の下に一寸餘の切傷ありとの事に目を附け去十八日午前六時頃筑前屋に出張し自稱大川五郎に對し嚴重取調べをなし倘汝の學友渡邊某氏も當地に在住し居れば萬事判明し居る事故最早覺悟なりと云はれたる時の彼は身体戰慄し一言一句なく全く後藤信一に相違なき旨自白せしより兩刑事は直ちに本署に引渡し野村警部の手にて取調べの上二十日身柄を檢事局へ送られたり

●鮮人の自殺未遂
西部敦松坊入角洞アスターホースの雇人……(二)は二十日午後三時頃自宅に於て小刀を以て自殺を圖り軟骨部を刺し之をエグリ鮮血に塗れ居るを西部署より棚橋司法保警察署と共に總督府醫院に入院せしめたりと原因は精神に異狀を生じたりと

●借人は雇人
南大門外寓洞朴容九(三〇)は日本語に巧みなるより吉野町居住金貸業田邊正人方に雇はれ中鮮人に貸與したりと稱し金四百餘圓を騙取消費したる事南部署刑事に探知され目下取調中

●夫婦喧嘩の餘沫
南部廣通坊上茶洞金德泰(五八)及妻黄姓女(三七)は二十日午後三時頃夫婦喧嘩の結果黄姓女は自殺するとて小刀を持ち出し咽喉を突かんとするを喧嘩はしても元々可愛い女房なり死なせて堪るかと夫は飼せんとする際巡査補が通り掛り和解せしめんとて刀身を握りし爲め右拇指を負傷したるが喧嘩は夫れにて事濟み

●嗚呼是誰の罪
本町三丁目秋吉清次郎(二四)は本年一月以降新町遊廓京城樓玉家鶴樓等にて數十圓の無銭遊興を爲し行衛を晦し居りたるを南部署刑事に捕はれ目下取調中

●散歩に出て逗留五日
龍山漢江通り一丁目田島菓子店雇人兵庫縣人田島啓太郎(三三)は泥醉して二十日午後十一時三十分頃本町通りを徘徊せし爲め南部署に於て拘留五日に即決

●油斷するのも惡い
李貴成(一三)朴福山(一二)洪壽男(十一)の三名は太平町一丁目二十九番戸三浦幸一方店先きにありし寵輪外二點を竊取南部署に突き出され取調中

●淨土宗青年會
第三十五回例會を明治町開教院に於て開催する演題左の如し

一我とは何ぞや　久家開教使
一祖先は何故に尊きや　松村藥劑官

●演藝だより

●壽座　二十二日木村猛夫一行の替り狂言は『潮』全十場重なる役割左の如し 阪巻東郷(木村)和田新一(福澤)木澤々山(桃井)(寺田)文子(君子)妹れたね(浮井)野……

●浪花館　連夜浪花光廣一行の浪花節

●青山愁の分離　歌舞伎座野口儀五郎の女婿青山愁は當地劇場組合營業部支配人なりしが今回辭職の上大抱負を持して二十一日内地へ向け出發したり

▲龍山座　人氣を得!大隈柳丈、笑福亭福圓の一座は二十日限り樂を告げ廿一日夜よりは大阪活動寫眞……興行の筈なるが同寫眞は……て見たることと無き新長尺のものにして中にも……一時間に渉れるものにて一枚の原板に四五千圓以上を投じ非常の苦心に成れる由背中入餘興として寒廣の娘淨瑠璃あり過般大坂に於て何れも大喝采を博せる程なれば定めし大入を占むるならん

●天氣豫報
(自廿一日午後六時至廿二日午後六時)
南の風 曇



パーマータイヤ京城特約販賣店 京城本町 織居自轉車商會 京城明治町 瀧川自轉車商會